ICHIHARA CITY

LIFESTYLE GUIDE BOOK

# LIVE in ICHIHARA

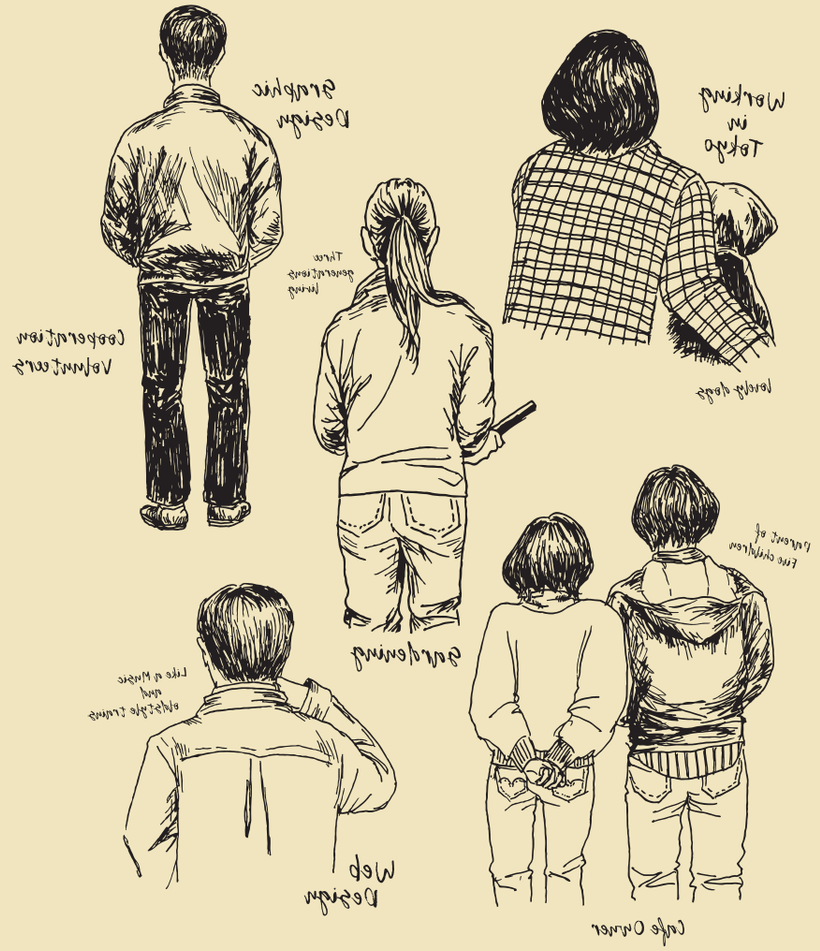
市原市
移住・定住
ガイドブック

いちはらに暮らすということ

## いちはらで叶える、みんなの夢のカタチ。








市原市

148

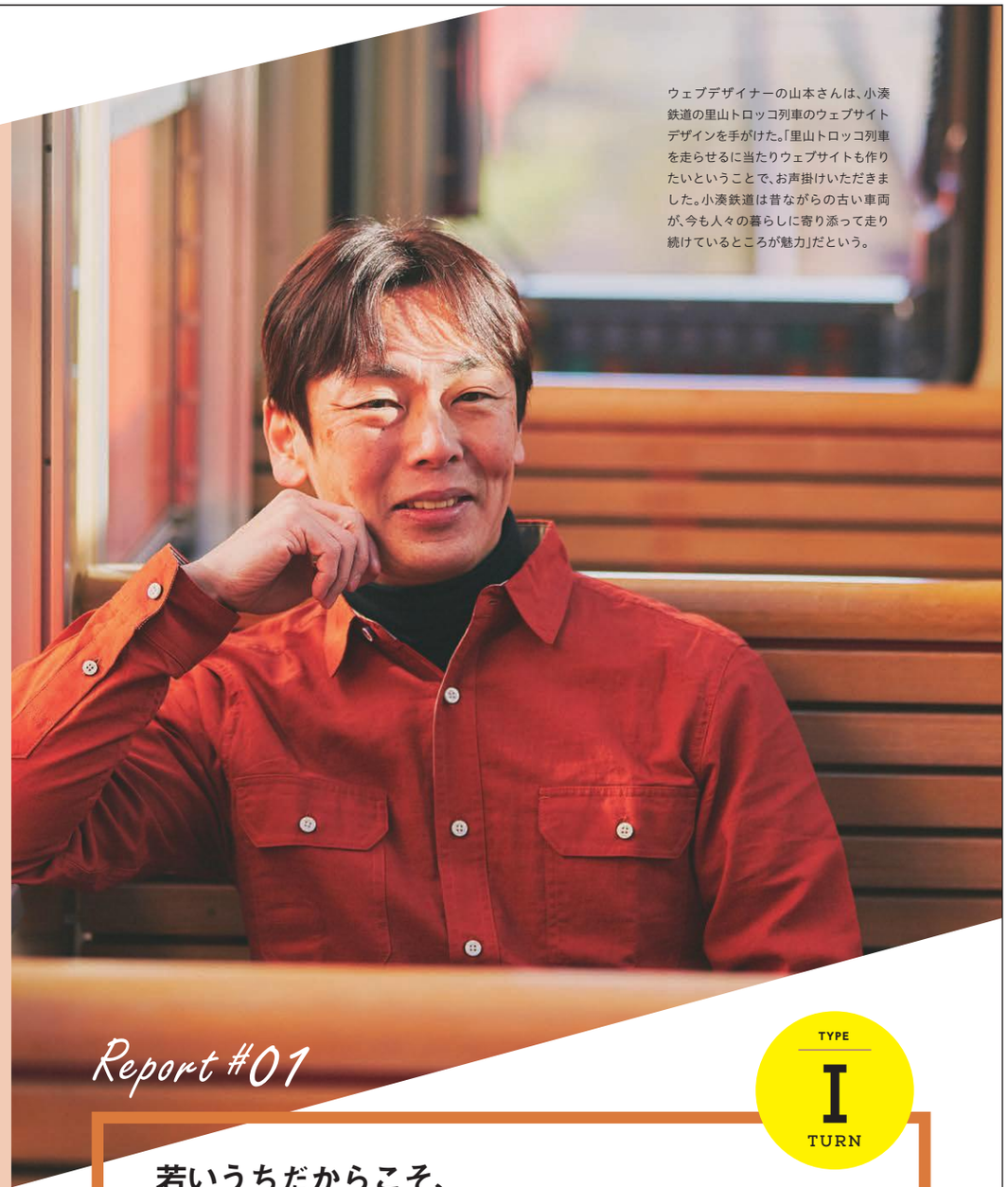
# じぶんらしく
# ちょうどよく、
# このまちで
# 暮らそう。

「自分らしさ」とはなんでしょう。改めて考えてみると難しいものです。将来のため、家族のため、もちろん日々を生きるため、いろんな理由で人は学び、働いて暮らしています。どんな理由も決して間違いではありません。でも、一度自分の位置や生活環境を見直し、実現したい夢や、どんな暮らしをしたいのか考えてみませんか。

好きな仕事をして、健康に良い食事をして、趣味に没頭して、きれいな景色を見て、だけど都会の便利さも捨てない。そんな暮らしができたら幸せ。春、菜の花畑が広がる中を、懐かしさを感じさせる小さな列車が駆け抜け、夏は水田の緑と空の青のコントラストが鮮やか。秋には紅葉のグラデーションに大地が染まり、奈良時代の史跡に悠久の歴史の息吹を感じる。冬、澄んだ空気を感じて、はるか富士山を望む。豊かな自然の中で目覚め、きれいな水と空気と食べ物に囲まれる。それでいて東京への通勤も便利。アクアラインで東京湾を走り抜ければ羽田や横浜の街がすぐそこに。

都会を捨てるのではなく、都会とつながったまま、今の自分に新たな「自分らしさ」をまとっていく暮らしが市原にはあります。

148



ウェブデザイナーの山本さんは、小湊鉄道の里山トロッコ列車のウェブサイトデザインを手がけた。「里山トロッコ列車を走らせるに当たりウェブサイトも作りたいということで、お声掛けいただきました。小湊鉄道は昔ながらの古い車両が、今も人々の暮らしに寄り添って走り続けているところが魅力」だという。

Report #01

TYPE I TURN

## 若いうちだからこそ、市原でいろんなことにぜひチャレンジしてほしい。

［理想の環境で在宅業務］　山本嘉範（やまもとよしのり）さん

山本嘉範さんが市原市に移住してきたのは今から22年前、1996年のこと。当時26歳だった山本さんは結婚を機に移住。

「元々東京の、それも都心に近い場所に住んでいたので、周りの環境が全く違うこともあって、最初は自分はこの暮らしに馴染めないんじゃないかと心配もありました。でも暮らしてみると意外とすぐに馴染み、環境も良くて今はとても気に入っています」

「元々妻の実家だった家に住み続けていこうと話して、この場所で暮らし始めて20年。一昨年に思い切って大規模なリフォームをしました」という自宅は、2階が山本さんの仕事場。仕事で使うパソコンが置かれたデスクの前方にはアナログプレーヤーにオーディオセット。「思ったように音楽が聴けなかった」生活から現在の「スピーカーのセンターに作業机を置いたレイアウト」にすることで、理想の環境で仕事と趣味に打ち込める部屋を実現。

「小湊鉄道は最近のものにはない古い工業製品としての力強さと地域に溶け込んだ風情がいいですね」と語る山本さん。

上：レコード集めが趣味だという山本さん。手にしているのは特にお気に入りの1枚。
下：「お向かいさんから育て方を教わったり、苗を頂いたりして今の畑ができました。田舎暮らしは人とのつながりが深まるのも醍醐味の1つです」

また庭には畑が広がり「ナス、キュウリ、枝豆、山芋、サツマイモなどを栽培しています。普通に作っても採れたての野菜はおいしいことを実感しました」。

その畑を支えるのは「水量が豊富で水道代も掛からない」という井戸で、生活用水も賄っているとのこと。「水のありがたみがとてもよく分かります」と、豊かな自然と共生するメリットを語る。

### 市原で見つけた自分らしい仕事のスタイル

「この環境の中で、できるだけ長く健康で100歳を目指して長生きしたい」と市原市で『百寿』を迎えることを将来の目標に掲げる山本さんは、移住は「若い頃の方がいい」と言う。

「自分の裁量で多様な選択肢を持てるのが、市原暮らしの魅力。お金もうけとは違う充実感、幸せを追求するには若い方が自分がやりたいことを選びやすいはず。そのような暮らしをしていると、東京や横浜に住む友人が面白がって遊びに来てくれます。

『自分は東京を離れられない』と思っている人は多いのかもしれませんが、若いうちだからこそ市原でいろんなことにチャレンジして、自分の本当にやりたいことを見つけてほしいですね」

夫の陽太さんは東京でサラリーマンをしていたが、夫婦で移住を決意。飲食店経営は未経験ながら、自宅のログハウスの前にある「Mai Cafe」は、今やTVでも紹介されるほどの人気に。カフェで提供する食材は地元のものを使用、子どもたちが山で摘んできた野イチゴなども使う。

Report #02

TYPE I TURN

## 子育てのために決意した移住、ここには生きる意味を自分で知る環境がある。

［里山でカフェを開業］ 國岡陽太（くにおかようた）さん／妙子（たえこ）さん

市原市田淵地区で「Mai（マイ）Cafe（カフェ）」を営む國岡さん夫妻が、移住を決意した理由は、「子育てをするのに田舎の環境を探していた」から。「日当たりがとても良くて、子どもたちが自由に外で遊べる環境だった」のが、この場所を選んだ決め手だった。

広い空と田んぼと里山に囲まれた「Mai Cafe」は陽太さんが自ら建設に関わった。その裏手にあるログハウスが一家の自宅。壁や柵などの仕切りがない広い敷地で子どもたちが存分に走り回ることができる。

「移住前のことは忘れちゃった」と笑いながら話す國岡さん夫妻。陽太さんは「気持ちが楽になり、以前より身体も軽くなりました」と言うが、いきなりの移住に不安はなかったのだろうか。

「その辺はあまり考えていなかったですね。考え過ぎてしまうと、行動できなかったと思います。もちろんこちらに来るに当たって近所付き合いなどに対し、気持ちの準備はしていましたが、周りの人たちがすごく優しくて、人付き合いが煩わしいというのは一切なかったです」と話すのは妻の妙子さん。「子どもがいたので、子ども同士のつながりが大きかったですね」と子どもの存在が、新天地での生活に重要だったと振り返る。

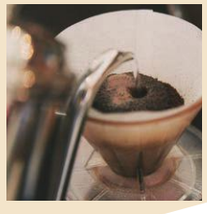
### 子どもと一緒に「生きる」ことが実感できる暮らし

「子どもたちは『リアルな生き方』ができていると感じます。季節ごとに新しい発見が常にある中で子どもが育てられ、生きていくのに大事なことを自分で知ることができる環境があるのが、市原で子育てをすることの良さですね」と妙子さん。

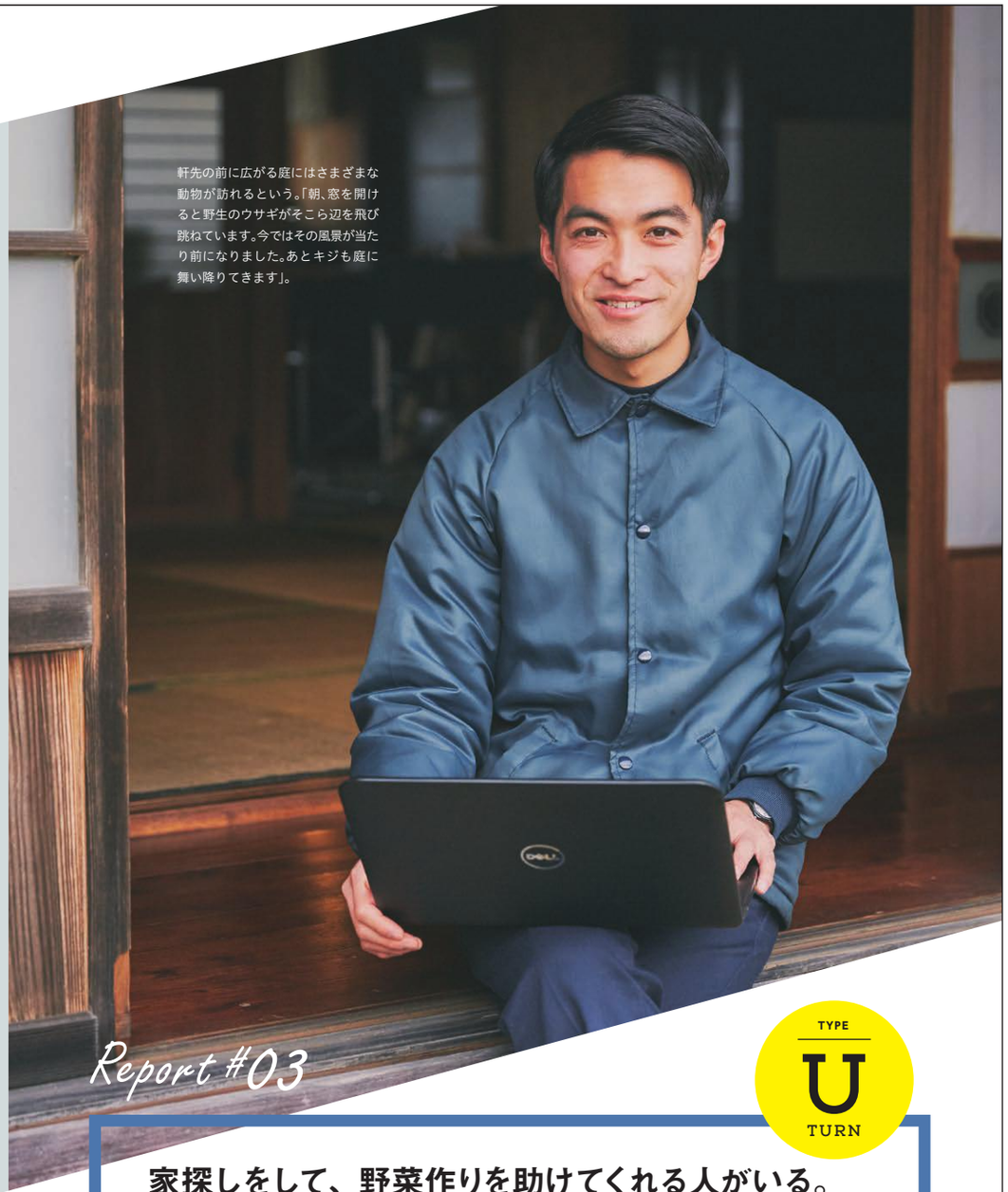
「常に家に自分たちがいることで子どもに仕事をしている姿を見てもらえることも子育てにプラス」だと陽太さん。

「仕事を手伝うことで、自分たちも仕事に関わっているんだという意識を持ってもらい、常に真剣に生きてもらえる。仕事をすることの意味も学べます。そういった形で子どもと触れ合えるのも自営業の良さ、理想的な環境だと思います」

「市原暮らしで一番気に入っているのは自然の恵みにあふれた里山」だと語る國岡さん夫妻。市原への移住について「まずは実践。軽い気持ちでいいです」と行動することを勧める陽太さん。そのそばで「何とかなるよね」とうなずく奥様の笑顔が輝いて見えた。



上：カウンターの前の大きな窓から見える景色を楽しみながら、落ち着いた時間を過ごせるのは、この場所ならではのぜいたく。
下左：子どもたちも世話をし、良き遊び相手でもある放し飼いの鶏の卵。
下右：「なるべく一から自分たちで作ったものを提供したい」との思いから、コーヒーも豆を挽いて一杯ごとに丁寧にドリップし提供している。



軒先の前に広がる庭にはさまざまな動物が訪れるという。「朝、窓を開けると野生のウサギがそこら辺を飛び跳ねています。今ではその風景が当たり前になりました。あとキジも庭に舞い降りてきます」。

Report #03

TYPE U TURN

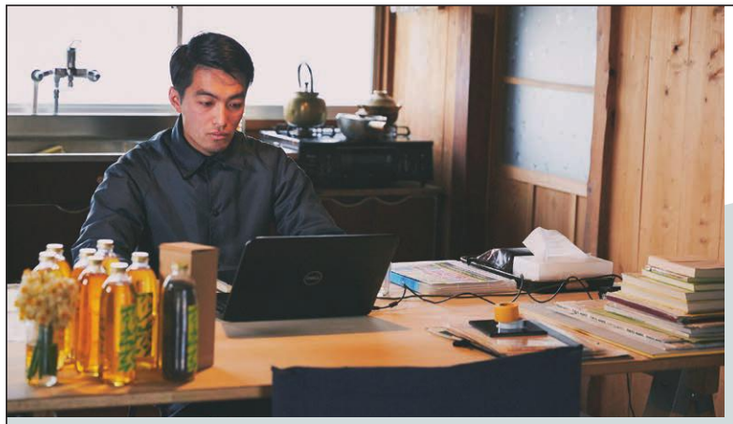
**家探しをして、野菜作りを助けてくれる人がいる。**
**温かく受け入れてもらったことを**
**今度は自分がしてあげたい。**

［古民家で多彩な仕事］ 髙橋洋介（たかはしようすけ）さん









髙橋洋介さんは市原市出身。東京の大学でデザインを学び、卒業後フリーのグラフィックデザイナーをしていた当時から、「市原で菜の花の種をまくボランティアに参加していて、いつかは帰って自分の生まれた所で自分の培った技術を生かせないかなと思っていた」ところ、都会の若者を地方に招致する取り組み「地域おこし協力隊」の募集があり、Uターンを決意した。

現在住んでいる自宅は、「この地域にちゃんと入って住みたいということをボランティアの会長さんに話したら、物件を探してくれて、最初に見に来たのがここ」だった。

「手を入れた所といえば風呂、水回りを新しくしたくらい」だという古民家。緑に囲まれ風通しも良いため、夏でもエアコンは不要。冬も石油ストーブ1台で暖房は十分まかなえるとか。

市原に来てからは「自分で育てたものを食べるところが一番変わった」といい、「野菜は裏の畑で採れるものだけで足りています。元々繊細だった性格が豪快になりました（笑）」。

グラフィックデザインの仕事もしている髙橋さん。作風も東京の狭い部屋で作業していた頃から変化し、

自身でデザインした菜種油のパッケージ。「道の駅に並ぶ名産品のデザインは繊細で丁寧なものが多いので、逆にインパクトを出したいなと思っています。」

「今はダイナミックなものをつくろうとしています」と自身の変化について話す。

自分の畑は家のすぐ裏手にある。自分で育てたり、近所の人からいただいたりと、あまり野菜を買うことがなくなったという。

**受け入れ体制がしっかりしている地域だと思いました**

「市原で一番好きな景色は春の菜の花畑。ボランティアに参加してから人が手入れを続けている自然の美しさを知りました」と話す髙橋さん。

今はグラフィックデザインの仕事と地域おこし協力隊の仕事を両立し、協力隊では菜の花から取れる搾りたての菜種油を作っている。

「菜種油を売るだけで終わらせないで、油を味わってもらったら次はボランティアの体験に来てもらい、次は移住してもらう。段階を踏んだ地域おこし、移住者を受け入れることができたらいいなと思っています」と、今後は自身が受け入れる側として、移住を希望する人の手助けをしていきたいという。「これまでも菜の花を植えてきた人や、土地を耕してきた人がいるので、ぜひ若い世代の人に移り住んで引き継いでほしいと思います」

「市原というまちは、来てみたら家を探してくれる人がいて、野菜の作り方を教えてくれる人がいる。さまざまなサポートをしてくれる人たちがいる優しいまち。とりあえず飛び込んでみてほしい」と移住を考える人にアドバイスをくれた。

148

自宅に設置したドッグランではマリブとポンの2頭の犬が元気いっぱいに走り回る。ドッグランの前に広がるのは一面の田園と小湊鉄道の線路、そして山々。四季の変化と共にその表情を変える景色を眺めながら愛犬とコミュニケーションがとれる。ちなみに猫も飼っている。

Report #04

TYPE I TURN

## 都会とローカルとのちょうどいい距離感が、心のスイッチを切り替える。

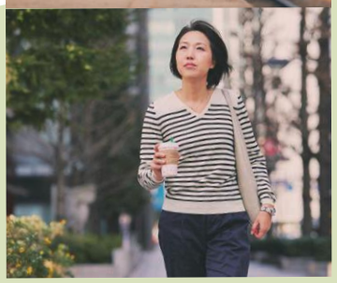
［市原から銀座へ通勤］ 松嵜慶美（まつざき よしみ）さん

「東京で暮らしていたんですが、仕事を頑張り過ぎて…プライベートも充実させたいと思い、住みやすそうな市原に移住を決めました」と語るのは、市原に移住後も都心のIT企業に通勤している松嵜慶美さん。松嵜さんは同じ千葉県内で出会った男性と結婚。自宅にはドッグランを設置し、愛犬、愛猫、そして家族に囲まれて暮らす。

「通勤時間はだいたい2時間くらい」と聞くと長く感じるが、「意外と楽」だという。以前は、会社と自宅が比較的近かったこともあって「夜中まで仕事をして、家に帰ってからも仕事をして、24時間ずっと自分の気持ちが切り替えられなかったのが、今は仕事する時間を別に確保して、休むときは休む。ペットと遊ぶことや、家のことができる」ように。通勤を「スイッチを切り替えるための時間」にしたことで、精神的にリラックスできるようになったとか。

「東京ではコンビニなどの作られたものを食べていたのが自炊をするようになり、規則正しい生活になりました。朝起きてご飯を食べて夫を送り出して犬の散歩をして、軽くストレッチするとか。だいぶ生活が変わりました」と、より健康になったと話す。

松嵜さんにとって移住して一番良かったことは、「夫と出会ったこと」。以前は「一人でも生きていけるようにしよう」と思っていたというが、「地域の友達がほしいと思っていたところ、特に結婚とかは意識せずに、たまたま知り合った」という現在の夫との結婚に至った。



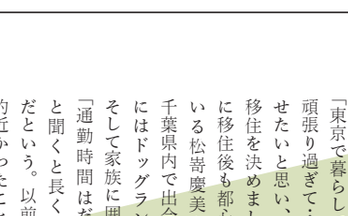
静かな田園風景の中にある小湊鉄道の小さな駅で電車の到着を待つ。ここから都心のオフィス街まで出勤する。移動時間中は「ノートPCで仕事することもある」がくまで“切り替え”の時間として活用。読書したり習い事の復習などに充てている。

### 市原に来てやりたいことが全部叶った

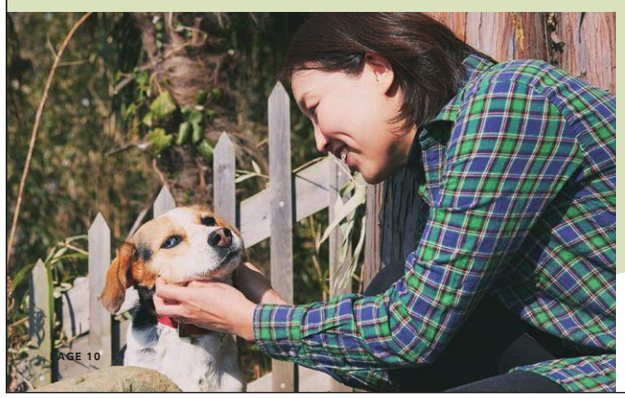
都心での住まいはマンションだったが、「自分の思う通りにインテリアも壁の色も選べる」ため、現在は一軒家に。「菜の花と桜が美しい春と、田んぼに水が入った時の緑、それに雪景色」と四季折々の風景全てが、市原市の魅力だと語るが、「一番好きなのは自分の家」。自宅では大好きな犬とドッグランで遊び、休日にはガラス工房に毎月通うなど「自分のやりたいことができる」生活を叶えた松嵜さん。

これからについては「今の生活で充足しているので、将来の事はそんなに気にしないかな」と言いつつ「カフェ巡りが好きでよく出かけてるのですが、ゆくゆくはそのような仕事もいいかな」と将来の夢を明かす。

「都会にいい店はたくさんあるけど、市原だからこそ感じられる豊かさがある」と語る松嵜さん。庭からの広大な眺めと愛犬に囲まれた笑顔が輝く。



「その日のコンディションで出来栄えが変わる」というガラス細工作り。手作りならではの自然な造形にも、市原での暮らしの雰囲気を感じることができる。



市原市で一番好きな景色は「春、水が張られた田んぼに小湊鉄道が走っている姿が映る風景」だと話す福島さん。
「田舎という感じはありますが、ちょっと車で行くと何でも揃う。田舎と都会が良いバランスで1つにまとまっています」

Report #05

TYPE I TURN

## 都会と自然の距離がちょうどいい、親子が寄り添える暮らしがある。

［三世代で里山生活］ 福島楊子（ふくしま ようこ）さん

「田舎暮らしをしたいと住み始めた両親を訪問しているうちに、景色とか空気がきれいなところが気に入って、自分も引っ越してこようと思いました」と話す福島楊子さんは、元々ゴルフ好きの両親が移住したのを契機に自らも移住。今では三世代で市原に暮らしている。

生活を移すに当たり「伊豆など他の地域も見て回りましたが、千葉は交通の便が良かった。東京にも行くので通いやすいように」と市原を選んだ理由を挙げる。最初は「夜7時ぐらいになると真っ暗で、その静けさに驚いた」と振り返る福島さん。

その後、仕事先の知人の紹介で出会った男性と結婚。今では両親の家から車で15分程の場所で暮らす。

ここでは「東京にいた時は考えられなかったんですけど、家の庭の草花などに手を入れるのが好きになった」という福島さんの趣味はガーデニング。最近は「家庭菜園も始めたのですが、夏には夏の、冬には冬の、四季折々の野菜を食べているうちに、体が自然と旬の野菜を求めるようになったことに気付きました」と、体に変化が起きたと話す。

元気いっぱいの二人のお子さんを育てる福島さんにとって「隣近所との距離が離れているので、家の中で子どもが走り回って騒いでも気兼ねなく過ごせる」今の暮らしは、「ストレスフリーな子育てができる」最高の環境。

以前はよく旅行に行っていたが市原に移ってからはここでの暮らしが気に入り「遠くにはあまり行かなくなった」とお母さん。

### 丁寧な教育と自然があふれた環境が子どもたちに最適

「海にも山にも川にもすぐ行け、広い公園がすぐそこにある。実家も近く、用事で子どもを預けたいなと思ったとき、すぐに電話して預けることができるので、両親も孫と頻繁に会えます。お互い結構楽しんでいるみたいです」と家族が近くにいることで、助け合えるだけでなくお互いの交流が深まるという。

また「学校の児童の人数が少ない分、先生が一人一人に丁寧に接してくれるので、伸び伸び学校生活を送れます」と、教育環境の良さを挙げ、「家の近くにはタヌキやアオバズクも来る。自然が（子育てにも）良い影響を与えていると思います」と市原市での子育てについて語る。

都会にはない自由な環境の中で三世代の家族が手を取り合って生きる暮らしを手に入れた福島さん。家の中から子どもたちの楽しそうな声が響いていたのがとても印象的だった。

上：植物があふれる庭の手入れは母と一緒に行う。「子どもたちもついて来てハーブやお花を摘んで楽しんでいます」。
下：家庭菜園で採れたトマトは、どれも大きさや形が個性的。季節ごとに自分で作ったものを食べる喜びがある。

# PICK UP SPOT

Recommend

### 養老渓谷 / 地磁気逆転地層

養老川沿いで発見された約77万年前の地層が「地磁気逆転地層」として一躍有名に。紅葉スポットとして知られる養老渓谷はハイキングコースも整備されている。養老渓谷温泉郷のヨウ素を含む茶褐色の湯「黒湯」は肌がすべすべになると女性に評判。

Recommend

### 上総国分尼寺跡

国の指定史跡になっている建立当時全国最大級の規模を誇った上総国の国分尼寺。貴重な資料や出土品、建立当時のジオラマなどを見ることができる。また、すぐ近くの上総国分寺には江戸時代に建てられた国分寺薬師堂、仁王門など、かつての面影をしのぶことができる。

Recommend

### 千葉こどもの国 キッズダム

親子で楽しめるゴーカートやアスレチックのほか、電車好きの子どもが大喜びしそうなミニSL。またバーベキューも楽しめて、屋内の施設も充実した遊園地。夏季には、子ども限定のちびっこジャブジャブプールも。

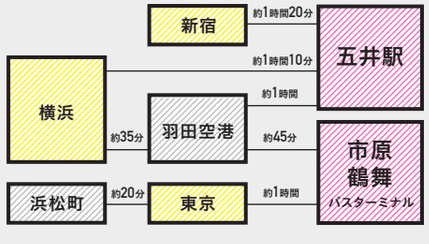
Recommend

### 上総更級公園

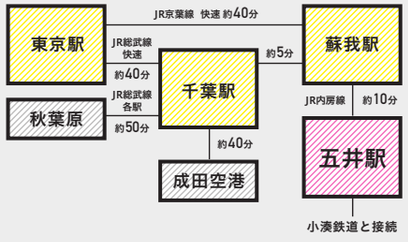
芝生広場、修景池、スケートコート オリプリランドなどがある広大な敷地を誇る公園。園内ではヨガやスケートボード、園芸など、いろいろな種類の教室も開催されるほか、中央図書館も隣接している。

# ACCESS GUIDE

### バス・車の場合

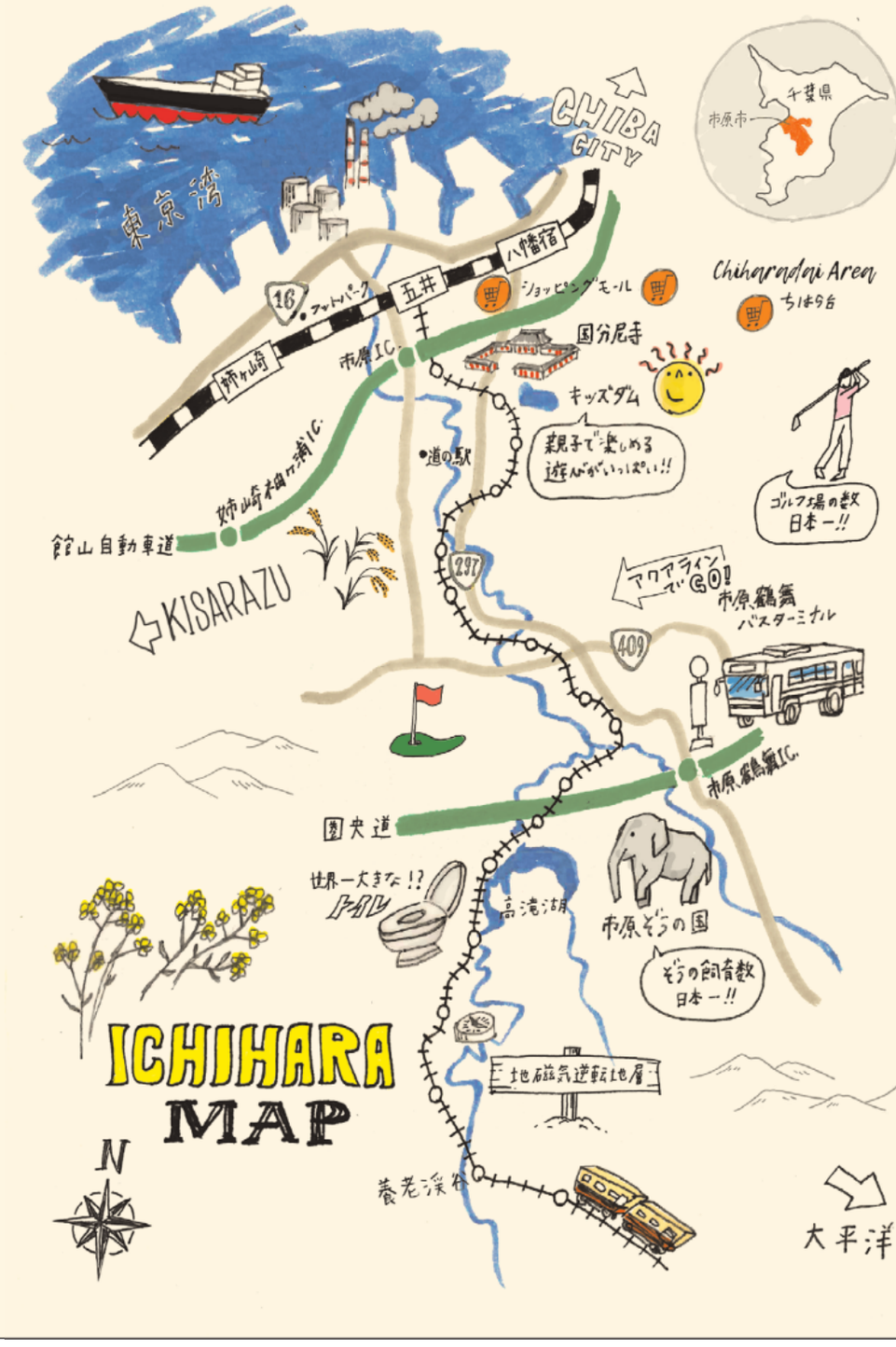



### 電車の場合







148

# いちはら 暮らし ガイド
ICHIHARA LIVING GUIDE

History & Art

## 歴史ある名所旧跡や子どもが楽しめる観光地も

"チバニアン"の愛称で知られる地磁気逆転地層には、休日になるとたくさんの見物客が訪れるほか、養老渓谷などの自然が身近に楽しめます。また奈良時代に建立された寺院跡を一部復元した上総国分尼寺跡展示館や飯香岡八幡宮本殿、立國寺などの名所旧跡も充実。象と触れ合える市原ぞうの国、千葉こどもの国キッズダムなどの遊園施設などがあります。里山が舞台の芸術祭「いちはらアート×ミックス」など、アートを活用し、にぎわいを創出する取り組みも活発に行っています。

Shopping

## 新鮮な野菜が気軽に手に入り、買い物環境も充実

市内には、ユニモちはら台（167店舗／駐車場2,400台）、アリオ市原（69店舗／駐車場2,600台）、アピタ市原（43店舗／駐車場1,200台）といった大規模ショッピングモールなどがあり、食品、日用品の購入のほか、映画鑑賞などが楽しめる施設もあります。また、農産物直売所も多数あるほか、梨やイチジクなどの季節限定直売所も数多く、季節ごとの旬を楽しみながら地元で採れた安全・安心で新鮮な野菜やフルーツが手に入ります。

Nature

## 豊かな自然と共に暮らす

市原市の北東部や中部には田園や台地の自然が残り、さらに南部に広がる里山には緑があふれ、県内有数の観光地であるとともに市民の憩いの場となっています。市を縦断する養老川の上流部は、最も自然性の高い地域で、梅ヶ瀬渓谷や大福山周辺は千葉県の自然環境保全地域に指定され、ニホンザルやニホンジカなどの哺乳類やモリアオガエル、タゴガエルなどの両生類が生息しています。また、内房・外房の海へのアクセスも良く、海水浴や釣り、サーフィンなども手軽に楽しむことができます。

Access

## 東京駅まで最短40分！高速バスならラッシュなしで楽々通勤

東京駅へはJR五井駅から千葉駅で総武線快速、または蘇我駅で京葉線に乗り換えて最短60分。特急さざなみ利用の場合は約40分で東京駅にアクセスできます。
JR五井駅から高速バスを利用すれば横浜駅まで約1時間。新宿駅（バスタ新宿）まで1時間20分でアクセス可能です。運行本数は1日往復12本で、例えば18時に退社しショッピングや食事を楽しんだ後、20時発のバスタ新宿発市原市役所行きの高速バスに乗車すれば、21時20分には五井駅に到着。バスなら満員電車と違い、ゆとりをもって通勤できます。鶴舞バスターミナルからも東京駅行きの高速バスが運行。こちらは東京駅まで約1時間（八重洲口行き）で到着できます。里山から都心への通勤も十分可能です。

Life Support

## 移住者の住宅探しをお手伝い、空き家バンク制度

不動産業者に仲介を依頼していない市内の空き物件を貸したい、あるいは売りたい所有者が、物件を市に登録し、市が移住や定住を希望している人などとマッチングを行う「空き家バンク制度」があり、移住先の住宅探しに役立っています。（P16参照）

Industry

## バランスの取れた産業と充実した雇用環境

京葉工業地帯の一翼を担う国内最大規模の石油化学コンビナートを拠点に、製造業や商業、サービス業が集積しています。また、国内最多を誇る32ヵ所33コースのゴルフ場があるほか、広大な農地を生かした米作や梨、ダイコンの栽培など農業も盛んです。これらバランスの取れた産業を基盤に、充実した雇用環境があります。

Sport & Culture

## スポーツ施設や文教施設が充実

プロサッカーチームのジェフユナイテッド市原・千葉や、関東サッカーリーグ1部に所属のVONDS（ボンズ）市原などのチームがあり、サッカーが盛んなまちとして知られています。4つのサッカー用グラウンドがある市原スポレクパークをはじめ、剣道や柔道、空手、弓道、薙刀（なぎなた）、卓球、バドミントン、ボクシングなどに利用できる施設に加え、相撲場もあるゼットエー武道場のほか、市内14の公民館、コミュニティセンターのうち、12ヵ所に体育館や体育室があります。
また、文教施設として中央図書館のほか、公民館・コミュニティセンターにも図書室があります。五井駅直結の複合施設・サンプラザ市原には各種会議や展示会、物品販売などに利用できる会議室や音楽スタジオ、温水プールなどがあります。

Kids Support

## 手厚いサポートで安心の出産＆子育て

### 1 子育てネウボラセンター

妊娠、出産から子育てまで切れ目のない支援を行う「子育てネウボラセンター」が保健センター内にオープン。妊婦健診や新生児訪問などの支援に加え、産後ケア事業「ゆりかご」、プレママ教室、食育講座などの各種教室。1歳6カ月、3歳児健康診査、2歳児親子の歯科健診など各種サポート。主に相談専用ルームMOM（マム）を用意し、母子健康手帳の発行や、妊娠、出産、子育てに関する相談を受けるほか、乳幼児の予防接種などの子育て情報を伝えます。

### 2 子ども医療費助成

0歳から中学校3年生までの子どもが入院・通院したときは、保険診療分の医療費の一部を助成する制度があります。

### 3 児童手当

3歳未満は15,000円、3歳以上小学校修了前の第1子、第2子に10,000円、第3子以降は15,000円。中学生は10,000円が養育者に支給されます。

### 4 病児保育

病状が急変する恐れがない、回復途中で自宅で静養を必要とする子どもなどについて、保護者が仕事や傷病などで保育できないときには、医療機関に併設した病児保育施設に預けることができます。

### 5 児童館

市内に4ヵ所の児童館があり、各児童館で親子クラブや運動遊び、工作、料理教室など、子どもの年齢に合わせた企画を実施し、育児に関する相談にも応じています。

### 6 ひとり親家庭の支援

児童扶養手当、遺児手当（所得制限あり）、母子父子寡婦福祉資金貸付などがあります。

### 7 各種相談窓口

子育て支援センターでは、育児相談や子育て支援、児童虐待や養育に関する相談を受け付ける家庭児童相談、ひとり親家庭・寡婦世帯の自立のための支援を行うひとり親・寡婦相談などが受けられます。
そのほかにも、乳児家庭全戸訪問（こんにちは赤ちゃん）事業や、子育ての手助けをしたい人と子育ての手助けを求める人がサポートし合う、いちはらファミリー・サポート・センター事業などがあります。

SPECIAL MOVIES

Check!

スペシャルムービー公開中!

本誌で紹介した人々が市原で叶えた移住のカタチ

## 『いちはらに暮らすということ』

Check!

### 『しあわせをシェアしよう』

リアリティー番組「テラスハウス」に出演した信太美月さんを主人公に、多国籍な女子たちと４人で東京から市原の里山・南いちはらへ日帰り旅行をする様子を描いたショートムービー。

LIVE in ICHIHARA
いちはらに暮らすということ

発行・編集　市原市
〒290-8501 市原市国分寺台中央 1-1-1
TEL：0436-23-9821　FAX：0436-23-7701
発行年　2018 年
撮影協力　小湊鐵道株式会社

市公式フェイスブック
@city.ichihara.jp

市公式ツイッター
@ichihara_city

市ウェブサイト
https://www.city.ichihara.chiba.jp





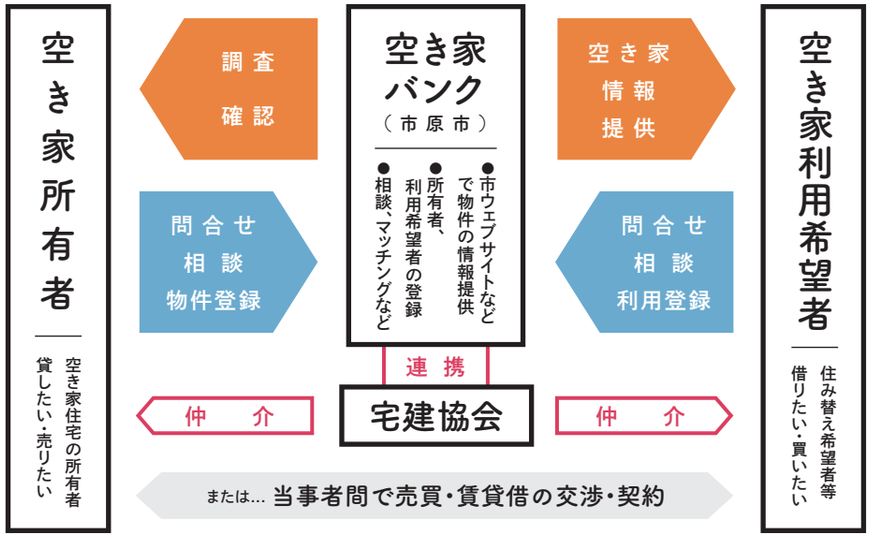


# 市原市空き家バンク制度

## 手　続　き　の　流　れ

1. 空き家を貸したい・売りたい所有者は、市に物件の登録を申し込みます。
※老朽化が著しいものや大規模な修繕が必要なものは登録できません。適正に管理され入居可能な物件が対象です。また、不動産業者に仲介を依頼している物件は登録できません。
2. 空き家を借りたい・買いたい利用者は、市に利用の登録を申し込みます。
3. 市は、左記①②の申込みがあった場合、内容を確認の上、市原市空き家バンクに登録します。また、物件については市ウェブサイトに掲載し、情報提供をします。
4. 利用登録者は、希望物件があった場合、市に交渉の申込みをします。
5. 市は、物件登録者に利用希望があったことの通知をします。
6. 交渉・契約等は物件登録者と利用登録者の間で行いますが、物件登録者は（一社）千葉県宅地建物取引業協会市原支部へ仲介を依頼できます（所定の仲介手数料が必要です）。

## 空き家バンク制度概要




問合先　市原市役所都市部住宅課住宅指導係　〒290-8501 千葉県市原市国分寺台中央 1-1-1
0436-22-1111（内線5391）　0436-21-1478　juutaku@city.ichihara.lg.jp